

地域医療機能推進機構（JCHO）秋田病院

地域医療連携室だより



2021年度 第1号 5月

新年度のご挨拶

おおつか ひろのり
JCHO 秋田病院 院長 大塚 博徳

昨年度は、コロナ禍で始まりコロナ禍で終わったという感じの一年でした。

そのような状況の中で、当院は令和2年12月25日からコロナ感染重点医療機関の指定を受け、能代山本地区での感染拡大時には、県の感染状況がフェーズ2の状況にもかかわらず、コロナ患者を受け入れました。そのことは県や能代保健所から高い評価を受け、報道でも紹介されています。また、コロナワクチンに関しては、秋田県で唯一の先行接種病院に指定され、令和3年2月19日には私をはじめとした当院の職員と関係者396名への第一回目のワクチン接種が開始され、これもテレビ、新聞などの報道で大きく取り上げられました。

今年度に入ってから、我が国のコロナ感染者数は増加の一途をたどっており、コロナ感染に対する予防や治療は、地域医療を守る病院として重要な使命となっていると思います。当地域にお

いては、4月19日からは施設入所中の高齢者へのワクチン接種が始まり、5月の連休明けからは、65才以上への集団接種や個別接種が始まります。ワクチン接種は、コロナ感染予防に関して現時点では唯一の医療者側が提供できる手段であるため、先行接種病院としての経験を生かして、集団接種会場への医療チームの派遣や、かかりつけ患者への個別接種という形で、積極的に協力していきたいと思います。

コロナ重点医療機関ではありますが、コロナ禍以前から地域住民が当院に対して必要としている医療の提供に関しても、適切な防護具の装着や手指アルコール消毒、定期的換気の実行等で感染予防を徹底し、継続して行っています。

今年度から、地域包括支援センターが附属老健施設内に移転となり、当院が目指す、疾病予防・早期発見、治療、施設での介護、在宅での介護や支援・相談がさらにスムーズに行える環境となりました。今後も地域が当院に求めているものを、風通しのいい、物事を頼まれやすい環境を作りながらいち早く察知し、その要望に応えていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。



新任のあいさつ



2021年4月から整形外科部長として着任致しました工藤整（くどうひとし）と申します。以前、JCHO秋田病院には2009年10月から2011年9月まで勤務させていただきました。当時整形外科部長であった大塚博徳院長に多くのことを学ばせていただき、その経験が現在も活かされております。その後、弘前大学病院などの勤務を経て約10年ぶりに当院で勤務する機会を得ることが出来ました。

整形外科の中でも関節外科やスポーツ整形外科、脊椎外科など細分化が進んでいます。私は脊椎外科を専門としておりますが、整形外科全般にわたって地域の皆様の健康に貢献できるように頑張ります。今後とも宜しくお願い致します。

（整形外科部長 工藤 整）



初めまして、4月より赴任した泌尿器科の今西賢悟と申します。一人医長での仕事は初めてであり、かつオーダーリングシステムに習熟しておらず現状では四苦八苦しております。

諸先生方とよく相談し、皆様の診療の一助となれればと考えております。

現状ではご迷惑おかけする事も多数あると思いますが、今後とも宜しく願いいたします。

（泌尿器科 今西 賢悟）



本年度よりJCHO秋田病院に赴任しました西部幸一と申します。

JCHO北海道病院から参りました。秋田県に来るのは初めてになります。外来がん治療認定薬剤師を取得しており、がん薬剤指導に

携わって参りました。

地域医療の中で、入院から退院そして外来へと、切れ目のない薬物療法に携わっていただければと考えております。

何卒宜しくお願い申し上げます。

（副薬剤部長 西部 幸一）



4月に国立病院機構北海道医療センターから転勤となり、JCHO秋田病院で勤務いたします。薬剤部の小澤真吾と申します。出身地は北海道の札幌で、秋田に赴任するのは今回が初めてですが、少しでも早く慣

れて、皆さんのお力になれるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（主任薬剤師 小澤 真吾）



JCHOうつのみや病院より転勤しました高橋千比路です。地元秋田に戻り、理学療法士として地域に貢献できることを嬉しく思います。至らない点も多く、ご迷惑をおかけすること

もありますが、皆様にお力添えできるよう頑張りたいと思います。何卒宜しくお願い致します。

（理学療法士 高橋 千比路）





この度、新しく臨床検査技師になりました横澤綾乃と申します。小さな頃からの夢だった医療職に就くことができたのでとても嬉しいです。学生の頃とはまったく違った経験の連続で、毎日があっという間に過ぎていってしまっています。そのような中でも沢山のことを吸収して一日も早く仕事に慣れるように頑張りたいです。

(臨床検査技師 横澤 綾乃)



看護師として4階東病棟に配属となり、日々業務を行っています。まだ慣れない業務に戸惑うことが多いですが、先輩方に教えていただきながら学びを深められています。

これから一歩ずつ成長していき、1人1人の患者さんに寄り添い、信頼される看護師になれるよう日々努力していきたいと思います。

(4東病棟看護師 加藤 理子)



4月から4階東病棟に配属となり、先輩看護師から指導して頂きながら日々の業務を行っています。4階東病棟は周手術期の患者が多く、覚えることが多いですが、先輩看護師が優しく教えて下さり、毎日とても充実しています。私の理想の看護師像である「常に笑顔で患者・家族に信頼される看護師」になれるようこれから頑張ります。

(4東病棟看護師 沢田 楓加)



4月から看護師として4階東病棟に配属になりました。まだ業務に慣れず戸惑うことも多いですが、先輩方からご指導を頂き、有意義な日々を送っています。患者さんに寄り添った看護ができるように一人一人との時間を大切にしていきたいです。

また、常に向上心・探求心を持って業務に励み、自身の看護観を更に深めていきたいです。

(4東病棟看護師 金子 杏菜)



3年間能代から離れ、看護師になるために上京し、たくさん事を学んで、今年から地元に戻ってきました。

能代の自然の良さ、人の温かみを身にしめて、自分らしい看護を提供できるよう、地元貢献していけるように頑張っていきます。

(3階病棟看護師 大高 岬)



この度、幼い頃からの夢であった看護師としてスタートを切ることができて、とてもうれしく思います。現在は、いち早く病棟の業務になれることを最優先に取り組んでいきましたが、私の看護観「患者様とご家族の心身に寄り添い、安心感を与えられる」ように、今まで学んできた知識や技術を活かしながら、実践できるよう日々努めていきます。

(3階病棟看護師 近藤 玲緒奈)



お部屋移動のお知らせ

皆様こんにちは！本庁地域包括支援センターです

念願の病院と連動した敷地にセンター設置が今年ようやく叶いました。

本庁地域包括支援センターでは平成 30 年、能代市から委託を受けて事業運営を開始しています。

今年で 4 年目を迎えました。65 歳以上の高齢者総合相談窓口でスタート！

高齢化率 40%をはるかに超える能代市です。また、本庁は市の中心部であり、商工施設が多く、さらに市営集合住宅も複数あり、独居や高齢者世帯を多く抱える特徴もあります。2020 年の総合相談件数は 4500 件を超えました。私たちは、高齢者が何か心配事があればすぐに駆けつけるよう、ネットワーク良く、早期対応をスローガンに置き、日々支援に取り組んでいます。

スタッフは 7 名体制、中でも、看護・保健師が 4 名と、他の包括にはない、医療職の充実と、この秋田病院という医療機関を兼ね備え、より質の高い、住民から信頼される機関となるように心新たに 4 月からスタートしました。

スタッフの連携はもとより、組織、地域と更につながる目標を今年掲げています。



JCHO 秋田病院 地域医療連携室です

3 月 29 日から地域医療連携室の部屋が新しい場所へ移転し、リニューアルされました。

今度は、訪問看護ステーションと一緒のお部屋となり、また地域包括支援センターも病院内に来てくれたことで、外来通院の患者様や退院後の患者様の生活環境に関する相談もすぐできるようになりました。

4 月 20 日からは、スタッフも 1 名増員となり、看護師 3 名、MSW2 名、事務員 1 名の 6 名体制で活動しています。これまでも、地域の医療機関や様々な保健・福祉サービス機関の皆さまと「連携の窓口」として活動し、患者様との切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるように、病棟担当スタッフは患者様・ご家族様の意向を大切に退院調整に力を注いでいます。

地域の方々との関係性はもちろんのこと、ケアマネの皆さま・事業所の方々・医療機関の方々とも関係性を大切に、地域に信頼され、必要とされる連携ができるように「誠実に・迅速に・正確に・丁寧に」をモットーに頑張っていきますので、ご利用の際は、お気兼ねなく声をかけてくださいませ。



認知症看護認定看護師からのお知らせ

認知症看護認定看護師の芹田と申します。

認知症の方は入院という環境の変化により恐怖や不安が強くなりやすいと言われて
います。認知症看護認定看護師は、入院して
いる認知症の方が安心・安全に入院生活を送
るためのサポートを行っています。

また、今年の1月からは新たに認知症ケア
チームを立ち上げて活動を始めています。
認知症ケアチームは医師、認知症看護認定看
護師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、
薬剤師、検査技師、管理栄養士の計7名で活
動をしています。活動内容は、週に1度ケア
チームのメンバーで入院している認知症の

方のところを訪れ、その方の状態や必要な介入について様々な職種のメンバーから意見を募り病棟で勤務する看護師への助言を行っています。現在は入院している方への援助しか行えていない状態です。今後は外来通院をしている認知症の方やその家族の方へも関わっていき、認知症の方がその人らしく暮らすことができるお手伝いができればと考えています。

まだまだ至らない点があるかと思いますが、困ったことがあったら気軽にご相談ください。

(認知症看護認定看護師 芹田 卓征)



JCHO 秋田病院 訪問看護ステーションです

開設から6年目となるこの春、事業所が病院1階フロアの一角へ
移転し、新しいスタートを切っております。

私事ですが、4月より当ステーションの管理者となりました、看護
師の高松絵里子と申します。訪問看護に従事していた経験はありま
すが、ステーションとその管理者としての経験はなく日々奮闘して
おります。看護師5名の編成で、能代山本地区を訪問エリアとし、
約80名前後の療養生活を送る方のお宅へ訪問させてもらっていま
す。医療処置目的だけではなく、ご家族への介護支援や
リハビリテーション、終末期のお看取りにも対応してい
ます。病院附属のステーションということもあり、外
来・病棟、地域連携室、地域包括支援センター、附属介
護老人保健施設、居宅介護支援センターとの連携が取り
やすいことが強みとなっています。地域で暮らす療養者
様の「自分らしく生きる」を支え、繋ぎ、ともに笑顔に
なれる地域づくりのお役に立てるよう頑張る所存です。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



職員ペンルー



ように、2匹ともしっぽがちぎれるくらい振って喜んで迎えてくれます。それが私の至福の時間です。散歩している姿を見かけたら、ぜひ声をかけて下さい。

昨年、新しい家族が仲間入りしました。あずき1歳2か月（写真奥）、つばき8か月（写真手前）。どちらもおてんばで、毎日家の中で走り回っています。2匹とも性格は真逆で、あずきは神経質な所がありますが、人がとても大好きで散歩中も見知らぬ人を見かけては小さい体で立ち上がり、遊んでと寄ってきます。一方、つばきは外では人見知りで怖がりですが、家に来た人には激しくジャンプをして遊んでと寄ってきます。私が仕事から帰ってきた時は、何日ぶりに会ったかの

（人工腎センター 伊東美智子）



独立行政法人 地域医療機能推進機構 秋田病院 地域医療連携室
〒016-0851 秋田県能代市緑町 5-22
TEL : 0185-52-3271（代表） FAX : 0185-54-7892（代表）